

26年12月分 プレカットの荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成26年 11月20日～ 26年12月10日

2. 調査実施方法

全国のプレカット工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
12月分の回答企業数は6社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) プレカット加工用部材の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/12月	27年1月	2月
仕入 動向	国産材製材品	△ 25.0	△ 50.0	△ 25.0
	外材製材品	△ 25.0	△ 41.7	△ 33.3
	構造用集成材	12.5	△ 12.5	12.5
消費 動向	国産材製材品	△ 25.0	△ 50.0	△ 33.3
	外材製材品	△ 33.3	△ 50.0	△ 50.0
	構造用集成材	0.0	△ 30.0	10.0
在庫 動向	国産材製材品	△ 41.7	△ 50.0	△ 25.0
	外材製材品	△ 41.7	△ 58.3	△ 33.3
	構造用集成材	△ 30.0	△ 50.0	0.0

・国産材及び外材製材品の仕入・消費・在庫は、3ヵ月連続して減少。構造用集成材の仕入は、12月の増加、27年1月の減少、2月の増加。

・構造用集成材の消費は、12月の横ばい、27年1月の減少、2月の増加。

・構造用集成材の在庫は12月、27年1月の減少、2月の横ばい。

(2) プレカット工場受注動向 Weight. D. I.

品目	26/12月	27年1月	2月
受注	8.3	△ 33.3	△ 25.0
加工	8.3	△ 41.7	△ 25.0
受注残	△ 16.7	△ 50.0	△ 41.7

・受注及び加工は12月の増加が、27年1月、2月は減少に。

・受注残は3ヵ月連続して減少。

モニターからのコメント

(加工用部材荷動き)

- ・仕入は、国産材順調に推移、外材は高騰寸前か？消費は不需要期に向けて減少中、在庫量は底に近い。
- ・為替が118円/ドルまでなり、全てコスト高で動いている、先々のボリュームを見越して仕入を計画。消費は12月は多少であるが多めとなる。平均在庫ボリュームを保ってコストを減らす。
- ・安定して入荷している。仕事が徐々に減少してきている。

(受注動向)

- ・雪を前に上棟終了近し、3月まで中での作業、よって加工量は大幅減。
- ・12月は一時的であるが混みあってきている、しかし加工ボリュームは知れているので、確実に売り上げを確保していく。
- ・年明け以降の動きが不透明である。